

小城市立岩松小学校
学校だより 第9号



岩松小だより

令和6年6月7日発行
発行者 校長 真子靖弘

6月の校長講話

6/3(月)、全校集会を体育館で実施し、その中で、校長講話も行いました。今回の講話のテーマは「問う力(疑問をもつ力)」でした。児童が大人として活躍する時代は、より予測困難で不確実、複雑で曖昧な時代(VUCA)になると言われています。これまでの常識を覆すような社会変化が次々と起こり、これまでの正解が通じない世界を児童は生きていくことになります。そんな時代を児童が力強く生きていくためには、自分で正解を導き出すために「考える力」が必要です。「なぜ?」「どうして?」「どうすれば?」と、主体的に自ら問いを立てて考える習慣をつけることで考える力は育ってきます。

児童には、日々の授業や学校行事、学校生活などに常に疑問(問い)をもちながら臨むことで、考える力を培ってほしいと伝えました。

講話後、子どもが書いた問い・感想を紹介します。

- ・問いを創る時、心がけた方がよいことは何か? (5年生)
- ・どうして人間は正解か間違いかの二つに決めようとするのか? (6年生)
- ・今から考える力をつけようと思いました。(2年生)
- ・問う力などをもっと磨きたいです。(4年生)
- ・私は「なぜ」「どうして」「どうすれば」と思えるよう主体的に学習に取り組んでいきたい。(6年生)
- ・私は自分で答えを創るなどの正解のない問題に取り組む自分の考えを書いたりしたい。(6年生)

これからの児童の頑張りに期待します。

岩松小幼保小連携推進委員会

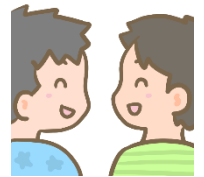
5/27(月)、幼保小連携推進委員会を開催しました。本会は、子どもに関わる大人が立場(幼稚園、保育園、こども園、小学校)を越えて連携し、児童の姿を通し、幼児教育と小学校教育の円滑な接続について話し合うことを目的に実施しています。園の先生方には、最初に1年生の授業を参観してい



ただきました。参観後は、短時間でしたが児童と交流する時間もとりました。1年生は園の先生にこの2ヶ月間の学校生活について一生懸命伝えていました。

その後、児童の学びや生活の基盤を育むこと等について情報交換を行いました。園の先生方からは、

- ・自分の意見を言う雰囲気が出来ていて安心した。
- ・生き生きと授業に参加している姿が見られてよかった。
- ・学校が安心して楽しい場所になっているのを感じました。
- ・対話的で自分で考えて学んでいるのが素敵でした。



といった声が聞かれました。1松担任の藤瀬先生を中心に、永淵純子先生、宮副先生、田代先生等が児童に寄り添いながら指導している成果だと感じています。児童の成長した姿を9日の参観日にご覧下さい。

すこやかタイム

5/21(火)、委員会活動を全校児童に紹介するすこやかタイムを開催しました。7つの専門委員会の各委員長が活動内容について、全校児童に向けて紹介しました。先生方にもお願いしていることですが、今後も不易9割・流行1割という感覚でそれぞれの委員会活動に取り組むことを期待します。



読書活動、頑張っています

学校だより第7号で読書活動のことを紹介しました。「校長先生が4月に読んだ4冊の本はどれですか?」と司書の林先生に尋ねにきた4年生がいたと聞き、とても嬉しくなりました。同時に、学校だよりを読んでくれていることにも驚きました。

5月の月間多読者ベスト3を紹介します。

- 74冊 5松 原口陽向さん
- 71冊 3松 倉成えいたさん
- 69冊 3松 岸川心優さん・原口こはるさん

